わたしのキノコ外出メモ
1998年

浅井 郁夫
ikuo asai

4/11（土）鹿島市
カシタケがすっかり大きくなっていた。酒の肴に、醤油と日本酒でホイール焼きにして食べる。チチタケよりも味は上かも。泉公園ではアミガサタケが顔を出し始めた。

5/4（月）都内明治神宮の森
カンゾウタケがもうだいぶ大きくなっている。3つほど採取しビールの肴にした。薄切りにしての刺身はとても旨い。

5/10（日）大洋村
早朝家を出て、カンゾウタケを採取し、午前9:30には上尾の会場に到着。忙しかった。よい標本を手渡すことができた。大きくて端正な姿の標本だ。

5/30（土）日光
今朝タモギタケを採った。蛍光色がとてもきれいだ。例年よりも20日以上早い。ホシアンズタケも2株持ち帰る。来週から6月半ば頃が最盛期だろう。

6/14（日）日光
埼玉のメンバー6名でホシアンズタケとタモギタケ観察。たっぷり出会うことができた。終日雨のおかげで行楽客も少なく、楽しいキノコ行脚だった。

7/5（日）日光
山王峠～刈込湖～湯ノ湖ハイキング。かなり乾燥気味でキノコ発生は少ない。目を引いてきれいだったのが、ツガノマンネンタケとベッコウタケ。久々に美しい姿に出会った。

7/19（日）富士山
三合目、幸助丸周辺、滝沢林道を歩く。オオモミタケ、ハナビラタケ、アカモミタケ、ホウキタケ、アシベニイグチなど採取。

8/9（日）富士山
今日は「キノコ狩り」。ホウキタケ、オオフクロタケ、アカモミタケ、アカハツ、ヌメリササタケ、クリフウセンタケ、オオツガタケ、アカジコウ、アカヤマドリ、ヤギタケ、クロカワなど多数収穫。まだまだ富士山に行くんだろうか。

8/15（土）富士山
またまた富士山に行ってきた。山登りが目的だった。今日のススケヤマドリはとても美味しい。富士山登頂もすでに100回を軽く超えてしまった。
8/24（月）シャグマの缶詰入手。シャグマアミガサタケの缶詰をスウェーデンに赴任していた友人から受け取る。日本とヨーロッパの食生活の違い、キノコとの関り方の歴史的差異等を感じさせられる。

8/29（土）富士山
朝9:30過ぎに、急に思い立って、富士山お中道周辺を雨中ピクニック。この3日間の雨のせいか、キノコが大量に発生している。特にイグチの仲間とフウセンタケの仲間が目立った。お中道ハイキングがキノコ観察に変わってしまった。

9/5（土）富士山
大沢駐車場周辺と精進口登山道周辺を歩く。今年の富士山は、きのこの発生量、種類ともに「作柄不況指数30%」。例年楽しみにしていたシシタケが今年は小さいまま腐っている。

9/13（日）南会津

木賊温泉、桧枝岐、高杖周辺をキノコ仲間４人と歩く。ホンシメジはまだ。シャカシメジ、クロカワ、チチタケ、イロガワリ、フウセンタケモドキ等を採取。大きくて白いAmanitaが薄暗い森の中でひときわ映えた。

9/28（月）湯の小屋温泉から南会津

26/27両日は宿泊勉強会の世話人のため宿に待機。今日は守門経由、田子倉湖をへて、南郷、木賊を観察しながら戻った。ホンシメジはまた駄目。山王の屋台にも全く並んでいない。持ち帰ったキノコはなんと「チダケ」ばかり。いよいよ栃木県人になったか。

10/3（土）栃木福島県境

栃木福島県境の山王峠周辺。今日は勇んで「コウタケ狩り」。am6:30山王トンネル脇に車を停め、急峻な尾根筋に取りついた。例年のコウタケのシロめがけて。でも、取れたのは、マツタケ２本だけ。あ～あ。でも連れ合いは大喜び。

10/21（水）日光から川俣

老母を乗せて日光～山王林道～川俣まで紅葉狩り。恒例の行事だが今年は終日雨。川俣では、大きなヤマブシタケを4つ程採取。久しぶりに、ニオイオオタマシメジに出会った。

11/2（月）川俣から武尊

ナメコ採りと紅葉狩り。川俣、日光、武尊の3カ所を周ってきた。川俣、日光は非常に乾燥気味。武尊ではナメコの幼菌がいたる所に顔をだしていた。大きな傘のナメコがとても美味かった。

11/7（土）奈良俣川上流

来週の写真撮影会の下見を兼ねて武尊に行ってきた。ナメコの幼菌がこの1週間ほとんど育っていない。これじゃ16kmの道のりを歩いても無駄になってしまいそう。

（川口市在住）

inocolumn キノコラム　1998年に出版されたお薦めキノコ本

小沼 良子

「ブナ林をはぐくむ菌類」 金子繁・佐橋憲生編
文一総合出版　定価 1800円

おお、お前ってすごいなぁーっと菌類をほめてあげたくなるような、そして、壮大な森の営みにへへーっとひれ伏してしまうような本です。森には実に様々な菌類が生息しています。病気を引き起こすことなく生きた植物組織の内部に生息し、昆虫や病原菌を抑えるようなはたらきをしている内生菌、樹木の根と共生関係にある菌根菌、昆虫の大発生をコントロールする菌類等々、森という生態系の中で菌類がどのような役割を果たしているか、といったことが、最前線の研究者たちによって、しかも最近の研究成果もふまえて、ともわかりやすく紹介されている本です。そして、このように興味深い本を世に送り出したのは、本会の会員で文一総合出版の編集者である菊地千尋さんです。ぜひぜひ手にとって読んでみて下さい。

「なにがなんでも！　きのこが好き」 小林路子著
日本経済新聞社

あの！キノコ画家の小林路子さんがキノコに関する本を出しました。昨年の夏に出版されたので、もうすでに本屋で見かけてお読みになった方もいらっしゃるとは思うけど、でも、やっぱり紹介せずにはいられない。まさに「なにがなんでも！　きのこ好き」タイトルずばりの本です。画集でも絵本でもありません。路子さんご自身のキノコに関するエピソードがふんだんに盛り込まれ、「キノコとは何ぞや」というこが、おじちゃん、おばちゃん、子供にもわかりやすく書いてある。キノコをよく知っていて、愛していなきゃ、こんなに楽しく、やさしくキノコについて語れない。まさに路子さんのキノコへの愛情がズンズンと伝わってくる本です。路子さんも書かれているけど、「何がお好き？」と聞かれて、「きのこが…」と答えたときの世間の反応ははっきりいって暖かいものではない。私も先日「キノコが好きな人に初めて会いましたー」と、とても驚かれてしまった。キノコって世間の人にとってはまだまだ食用か栽培なんだよねぇ。色も形も変化に富んであんなに美しいのに，キノコを愛する人にも、そしてキノコをよく知らない人にもお薦めの一冊です。